

## 卷 頭 言

### — 研究と産業の連絡の強化 —

三 島 徳 七\*



我國の現状を省みる時、私は研究と産業の連絡を強化すべきことを切に望むものである。

研究と産業、換言すれば學界と業界は今日以上もつと強力に、もつと懇命に協力しなければ、産業の復興は到底達成出来ないのではなからうか。

もとより敗戦で、貧乏のどん底におち入つた我國が戦勝國のアメリカ、イギリスなどに急に追付くべくもないが、勝つたとは云え、臺所の苦しいフランス、負けたりと云えど隆々たる復興ぶりを見せている西ドイツの姿をみる時、殊に昨年後半期に西ドイツを中心に歐州を視察する機会に恵まれた私としては、我國がこの貧乏状態から脱出して産業を建て直すべき一つの方途と

しては、研究と産業の連絡強化以外には途がないのではなからうかとさえ考へている。

戦後、各國の一流科學者や産業人が日本の産業及び學界の活動を視察された後の意見をよく味わつてみると、研究のレベルは大して低位にあるとは思へない。ある分野に於ては非常にすぐれた業績をさえ認めるのに、研究成果を如何に産業に應用するかという面への努力、熱意が不足している點と、應用する上に必要な創意工夫に缺けている點がいつも指摘されていた。

第二次大戦により非常な被害を蒙つたヨーロッパに於ては、戦後の復興の熱意はまことにすばらしいものがあり、産業復興に學界が直接に貢獻すべき方途が確立され、今や着々として成果をあげている。

フランスの IRSID (Institute de recherches de la sidérurgie) の例でも明かな如く、鐵鋼業界が賣上の 0.3% をさいて中央研究機關を建立し、業界の中心課題や共通重要課題の解決に學界を動員し、學界研究機關も亦積極的にこれに協力して産業復興につとめている。

我が日本では戦後はこのような動きは甚だ低調であり、輸入技術にたより、それも不消化の上に又つめ込むという形の極めて非能率的な状態で、貴重な外貨の浪費に終る場合さえもないではない、この事は單に政府のみの責任でもなく、我々學界人、また業界人の全體の責任であると云わねばならない。

私は戦時中の統制その他を夢みてそれに返れと叫ぶものではない。しかし日本學術振興會その他は残つてゐるし、日本鐵鋼協會をはじめ各學界にも研究委員會や之に類するものに旺盛な活動力が潜在することを示している。

更に政府各省に附屬した研究機關や大學の研究陣も力強い研究熱に燃えている。これ等を如何に連絡し、如何に利用して産業の復興に役立たしむるか。すべて我々の努力と熱意にあると云わねばならない。

日本の經濟は困難である。アメリカの某新聞記者の云つた様に、日本産業の脚は粘土であつたかも知れない。

その弱い脚をとられた状態にあつて、産業復興を着々で行うのは決して容易なことでもないことも亦自明の理である。しかもいよいよ破局が接近し、回避の爲めのデフレ政策をとつたが、これで各方面の苦しきは容易なものではない。多くの人はこの苦況にあつて研究などは、もつての外だといふかも知れない。

\* 東大名譽教授日本學士院會員前會長工學博士

私はこれに反対である。この苦況にあつて頑張り、業界と學界は一體となり、努力してこそ初めて難局の克服が出来るものと信ずる。

然らばその具體策は如何。具體策なき計畫は夢想である。先進國イギリス、フランスやスウェーデン等の實例をみればよい。業界から費用を出す。政府は之を助けて補助金を與える。そこで政府、業界及び學界の三者合同で強力な責任ある委員會を設け、これによつて産業と研究の強き連絡を實行すべき體制を定める。

我國では業界の研究陣、それに臨む首脳部の頭にセクショナリズムが強く全體としての團結が乏しい。不況が進むと一層その傾きが多くなる。然るに現在歐州ではベルギーに出來た Low-Shaft furnace の委員會 (Committee for International Research on Low-Shaft Blast Furnace) の如くフランス、ベルギー、ルクセンブルグ、イタリー、オランダ等7ヶ國が共同で、貧礦と低級石炭を以て銑鐵を安價に製造する研究に非常な努力をしている。種々の理由はあるがこれ等各國の態度は實に眞劍で大に教えられるものがあつた。彼等は追いつめられているとも云えよう。

私は日本の現状は實は歐州の小國よりももつと追いつめられているといつてよいと考えている。今こそ我々は西獨國民の燃ゆるが如き氣力や歐州各國に見るが如き熱情を以て産業復興に全知全能を注ぐべしである。

ここに於て私は再び研究と産業の連絡を強化すべき事を提唱する。現在でも通産省に工業化、鑛工業技術研究助成金、また文部省に科學研究助成金があり、政府もこの方面に力をそそいでいるが、私の云いたい事は今一層の努力と、歐州諸國の實例にならつて新しい構想を以て再出發をして欲しいと願うことである。

拙文で意をつくさぬところが多いと思ふが御推讀を得れば幸甚である。